



高等学校段階から教職への理解を深め，進学・教職志望意欲の向上を意図した取り組み—北海道教育大学釧路校 令和5年度「教員基礎」の実施報告—

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-08-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 玉井, 康之, 越川, 茂樹, 小野, 亮祐, 星, 裕, 玉井, 慎也, 半澤, 礼之 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/0002000229

高等学校段階から教職への理解を深め、進学・
教職志望意欲の向上を意図した取り組み

—北海道教育大学釧路校 令和5年度「教員基礎」の実施報告—



令和6年7月

国立大学法人北海道教育大学釧路校

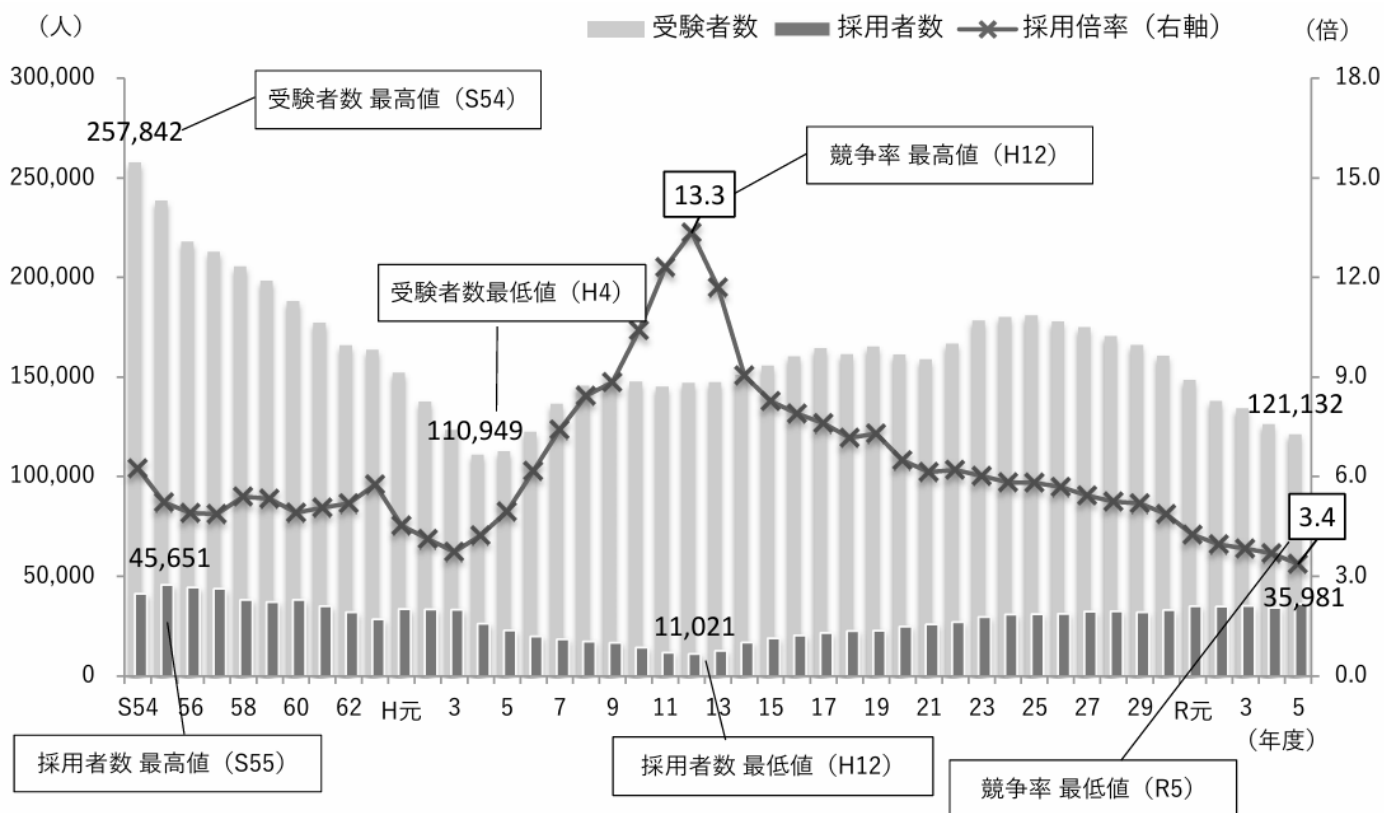
1 北海道高等学校「みらいの教員育成プログラム」の概要

(1) 問題の所在

教員採用選考試験の受験者の競争率は、平成 12 (2000) 年を最高値として減少傾向にあり (図 1)、この傾向は、北海道においてもほぼ同様である。また、ここ数年、受験率の低下と共に、学校における教員不足が課題となっており、北海道においても学校運営上の大きな問題となっている。

これらの状況を受け、文部科学省は、教員採用選考試験の時期の早期化や複数回の実施に向けた方向性を提示し (文部科学省, 2023b)、北海道教育委員会においても、令和 5 (2023) 年度より教員採用選考試験の複数回実施に取り組んでいる。またそれ以外にも、令和 2 (2020) 年度より教職を目指す学生を対象とした草の根教育実習、高校生向けのセミナーの開催等を行うことで、教職の魅力の紹介や教職への進路選択の機会を提供している。草の根教育実習は、令和 5 (2023) 年度に 184 名の大学生の参加、高校生向けセミナーは 1300 名を超える高校生の参加と年々、参加者は増加の傾向にある。

そのような中、北海道教育大学と北海道教育委員会が連携し、オンラインで実施する高校生向けセミナーを発展させ、学校現場や教育大学に実際に行くことで、高校段階からより実践的に教員の仕事を理解し、教職への意欲の向上を図るために、北海道高等学校「みらいの教員育成プログラム」を開発することとした。



(注)「総計」は小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、養護教諭、栄養教諭の合計

図 1 総計・受験者数・採用者数・競争率 (採用倍率) の推移 (「文部科学省, 2023a」より抜粋)

【引用文献】

- 文部科学省 (2023a) 「令和 5 年度 (令和 4 年度実施) 公立学校教員採用選考試験の実施状況のポイント」
- 文部科学省 (2023b) 「公立学校教員採用選考試験の早期化・複数回実施等について方向性の提示」

(2) 北海道高等学校「みらいの教員育成プログラム」の目的

高校段階から教員の仕事を理解し、教員になるための素養を高めるとともに意欲の高揚を図る。

(3) 北海道高等学校「みらいの教員育成プログラム」の内容と実施体制

「みらいの教員育成プログラム」は、高等学校の生徒を対象とし、教職意欲や教員養成大学への進学意欲の向上を図ることを通して、教員志望者を増やすことを目的としている。そのために、高等学校段階から、教育大学への進学による教員養成、北海道での教員採用へと接続していくことを目指している（図2）。

実施に当たっては、北海道教育大学と北海道教育委員会、それに加えて拠点校や参加校と呼ばれる高等学校の三者の協力のもと運営・実施を行っている。主にプログラムの作成・実施等を北海道教育大学、参加者の募集や連絡調整等を北海道教育委員会、参加する生徒への連絡等を高等学校が担い、北海道高等学校「みらいの教員育成プログラム」連携協議会で協議及び情報交換を行っている。

「みらいの教員育成プログラム」は、「教員基礎」と「教員基礎探究」の2つの科目から構成されている。「教員基礎」は高校2年生、「教員基礎探究」は高校3年生を対象としている。どちらも教員養成系大学又は学科への進学を希望している学生を対象に参加者を募り、「教員基礎」は2年生の後期、「教員基礎探究」は3年生の前期に実施している。

実施に当たっては、道央圏を対象とする札幌校、道北圏を対象とする旭川校、道東圏を対象とする釧路校の3キャンパスで実施することとした。令和4年度より札幌校で「教員基礎」を先行実施しており、令和5年度には旭川校、釧路校で「教員基礎」を実施、札幌校では「教員基礎探究」を実施した。「教員基礎」、「教員基礎探究」は、学校設定教科に関する科目として高等学校の選択科目として実施し、どちらも1単位の科目となっている。

「みらいの教員育成プログラム」の内容は、教職への理解を深め、教職意欲や教員養成大学への進学意欲の向上を図ることを意図しており、実際の学校現場での実習、大学での講義を取り入れることとした。そのため、附属学校等の受入校での学校実習を取り入れている。他に、大学進学後の学習の基礎的・基本的な内容についての学習や学校現場の教員との交流を取り入れた。

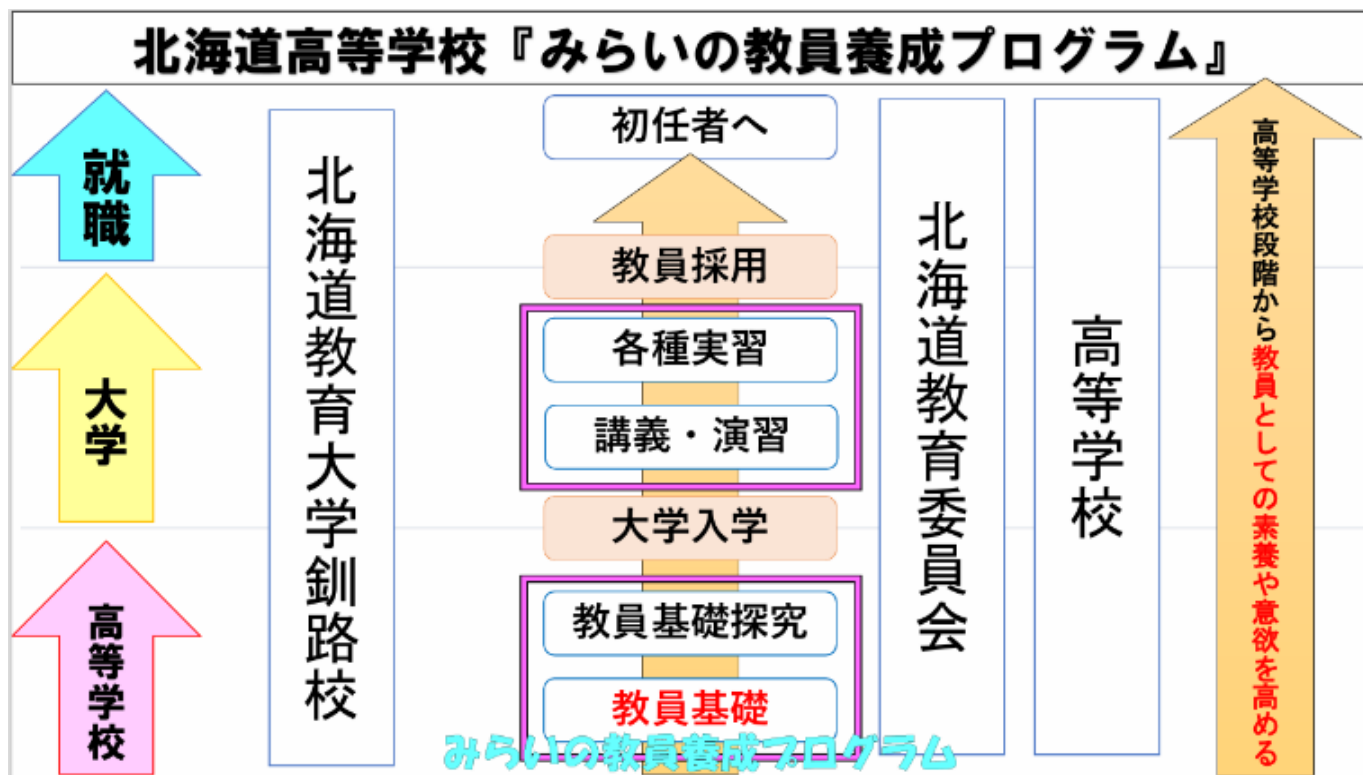


図2 『みらいの教員養成プログラム』全体像

(4) 「教員基礎」の目的

教員に必要な基礎知識を学ぶとともに、児童生徒との触れ合いを通して、教職についての理解を深める。

(5) 令和5（2023）年度「教員基礎」（道東圏）の内容の概要と実施体制

令和5年度の「教員基礎」（道東圏）は、拠点校である釧路江南高等学校2年生15名を対象として実施した。実施時期は、2023年9月21日（土）～2023年12月14日（土）であった。

実施に当たっては、「教員基礎」開始前に連携協議会が開催され、その中で令和5年度の実施体制等についての確認がなされた。協議の中で、大学担当者と高校生をつなぐ方法として「Google Classroom」を用いることが決定され、北海道教育委員会が大学担当者等にアカウントを提供することとなった。

プログラムの実施は、北海道教育大学釧路校が中心となって行った。北海道教育大学釧路校の中では、キャリア支援委員会が担当することとし、毎回の授業に主担当者に加え、キャリア支援委員会の委員と、釧路江南高等学校の教員、北海道教育委員会の指導主事が運営側として参加した。

「教員基礎」は、第9回まで実施され、大きく5つの内容に整理された。1つ目の内容は、第1回のオリエンテーションとし、プログラムの概要説明、生徒自身のこれまでの学校経験を想起し、自己課題の設定を行った。

2つ目の内容は、第2回の学校実習1であり、阿寒湖義務教育学校での実習とそのふりかえりを行った。

3つ目の内容は、第3～4回の学校実習2であり、附属義務教育学校前期課程での実習とそのふりかえりを行った。なお、附属義務教育学校前期課程での実習では、生徒たちが児童を対象としたレクリエーションを企画し、実施した。

4つ目の内容は、第5～7回の学校教員との交流であった。遠隔での交流とし、第1回で考えた自己課題に関する質問を中心に、若手教員への質問を行った。また、教職の理解を深めるため「学校で起こり得る問題への対応」をテーマに議論を行う場面や、教員として求められる資質・能力についての講義等も行った。

5つ目の内容は、第8～9回のまとめであり、自己課題を中心としながら、これまでのプログラムを通して考えたことを整理し、プレゼンテーションを行った。

令和5（2023）年度「教員基礎」（道東圏）の実践内容の詳細については、次章以降、釧路校のホームページに掲載した記事を紹介していく。

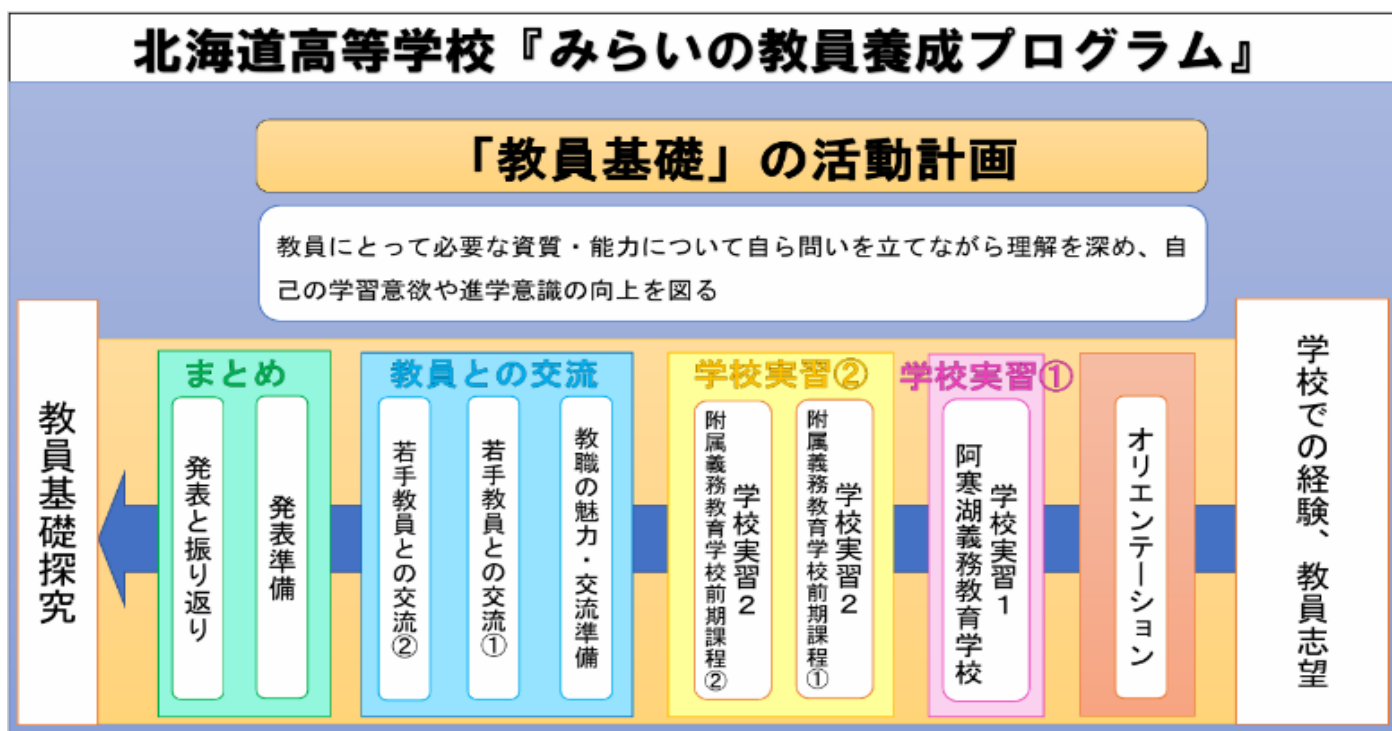


図3 「教員基礎」全体像

2 令和5（2023）年度「教員基礎」（道東圏）の具体的内容（釧路校HP掲載記事）

「みらいの教員育成プログラム」釧路モデルの実施報告 No.1（2023年9月23日実施）

北海道教育大学では、高等学校段階から教員の仕事を理解し、教員になるための素養を高めるとともに意欲の高揚を図る「みらいの教員育成プログラム（前半：『教員基礎』、後半『教員基礎探究』）」を北海道教育委員会と連携して実施しています。

釧路校でも、2023年度より実施することとなり、北海道立釧路江南高等学校の2年生15名がプログラムに参加しています。9月23日（土）9:00～12:00、「教員基礎」の第1回目（オリエンテーション）が実施されましたので、概要を以下ご紹介します。

【趣旨説明・自己紹介】

釧路校でのプログラムを主に担当する大学教員は、星裕准教授です。オリエンテーションの冒頭、本学・副学長の玉井康之先生がプログラムの趣旨を説明し、参加している高校生に期待することを共有しました（写真1）。その後、プログラムに関わる大学教員（越川茂樹教授、玉井慎也講師）や北海道教育委員会の指導主事、参加している高校生がそれぞれ自己紹介をしました（写真2）。

【プログラムの内容】

プログラムの前半（高校2年生段階）に当たる「教員基礎」では、①学校実習、②現場教員との交流、③学習成果の発表などを実施します。

釧路校では、阿寒湖義務教育学校（学校実習1）や附属釧路義務教育学校（学校実習2）に直接訪問し、授業や休み時間の児童生徒や教師の様子を観察したり、実際に教員の仕事を少しだけ体験したりする場を設けます。そして、高校生が気づいたことや疑問に思ったことを大学に戻ってから議論し、教職の魅力などについて若手教員と交流します。最終的には、高校生が自らの学習成果をプレゼンし、教員にとって必要な資質・能力や教職意欲・進学意識の向上について自己を振り返ります。

【演習活動】

第1回のオリエンテーション（写真3）では、①「小学校・中学校時代の楽しかった思い出を振り返ってみよう」、②「教員の仕事には、何があるか思い出してみよう」、③「『教員基礎』を通して、自分が追究したい課題（自己課題）を設定しよう」という3つの演習活動を展開しました（写真4）。

演習活動は、個人思考→ペア&グループでの検討→クラス全体への発表という流れで進行し、「児童生徒の立場」と「教員の立場」の両方から「学校」を捉える様子・発言がいくつもありました。

【学校実習に向けての注意事項・基礎知識】

プログラムの参加者は、「教員に準ずる立場」として、次回の阿寒湖義務教育学校の実習に臨みます。身だしなみ、挨拶・言葉遣い、積極的な姿勢、個人情報への取扱いなど、教員に求められる「当たり前」を確認し、常に児童生徒や保護者や地域の方々から見られる存在であることをおさえました。

また、「義務教育学校」という学校制度の仕組みや特色についても確認し、今後増えていくことが予想されているタイプのモデルとなる阿寒湖義務教育学校に訪問する意義を考えました。そして、阿寒湖義務教育学校の位置や学級・職員・児童生徒の数、総合的な学習の時間で系統的に学習する「阿寒湖学」について確認し、実習に向けた基礎知識をおさえました。

【指導案・授業の分析】

第1回の終盤には、阿寒湖義務教育学校で実施する授業分析の方法を模擬演習しました(写真5)。第3学年の外国語活動を事例に、指導案から様々な情報を読み取り、実際の授業動画を視聴して記録をシートに残し、教師の意図と実践のズレや児童の様子を分析・考察できるようにしました。

【学校実習1の目標設定】

最後に、第1回のオリエンテーションを通して、阿寒湖義務教育学校について「わかったこと」と「実習で見たいこと・聞きたいこと」を書き出し、具体的な学校実習1の目標を設定しました。

以上が第1回目概要です。3時間に渡って、真剣に「学校」「教職」について考え・議論する様子が何度も見られました。釧路校としても、北海道教育委員会や釧路江南高校の関係者と連携し、参加している高校生の夢や進路を応援し、問題意識を深める後押しをして参ります。今後も、釧路校での「みらいの教員育成プログラム」に関する実施報告をして参りますので、ぜひご注目ください。

【掲載写真】

写真1：担当教員の星裕先生(左)とプログラムの趣旨を説明する副学長の玉井康之先生(右)



写真2：プログラムに参加する高校生同士の自己紹介



写真3：プログラム初日(第1回目)の目標を確認



写真4：演習活動の様子



写真5：指導案の読み取りと授業記録の作成



「みらいの教員育成プログラム」 釧路モデルの実施報告 No.2 (2023年9月30日実施)

9月30日(土) 7:00~16:00, 「教員基礎」の第2回目(学校実習Ⅰ:阿寒湖義務教育学校)が実施されましたので, 概要を以下ご紹介します。

【プログラムの内容】

阿寒湖義務教育学校にて, 各自の配属学級の授業観察や休み時間における児童とのかかわりを通して学校の日常に触れ, その後前回の授業で設定した自分の目標と関連させて学校実習Ⅰの振り返りを行うことが今回の主な活動内容でした。

【ガイダンスと自己紹介】

初めに高橋校長先生と南教頭先生から学校の特色や実習の流れなどの説明を受けました(写真1)。その後全体で児童と対面し, 自己紹介をしました。その際, 児童からいくつかの質問を受けました。アニメ等に関する質問では, お互い共通に知っているものや好きなものが一致していると控えめな歓声が沸き, 徐々に心の距離が近づく兆しが見られました(写真2)。

【配属学級における活動】

それぞれ配属された学級にて, 授業観察や児童との交流が行われました。例えば, 低学年の学級等は児童とゲームをして交流することから活動が始まっていました(写真3)。3年生の学級では, 児童らが生徒に学校を案内する活動をしていました(写真4)。児童たちは多少緊張しながらも生徒に校内を案内していました。一方生徒は接し方に戸惑いながらも真剣に説明している児童らに連れられて校内を散策していました。

この日の授業観察した教科は, 国語や社会, 図画工作などでした。生徒たちは授業の様子を熱心に観察し, 気づいたことを記録していました(写真5)。

【休み時間における児童とのかかわり】

体育館においてドッジボールやバスケットボールをしたり(写真6), 教室でカードゲームをして楽しく交流することができました(写真7)。「一緒に~しよう」と児童からの声掛けもあり, 少しずつ関わりをもつことができました。授業時間に加え, 休み時間の児童の様子も知ることができ, いろいろな場面で関わることの大切さや楽しさを実感することができ有意義な時間となりました。

【防犯教室への参加】

この日の2時間目は, 外部講師による防犯教室でした。2年生から6年生の児童とともに, スマートホンの使う上で注意しないと友人関係の崩壊, 生活のリズムの乱れや思わぬ危険に晒されることを学びました。具体的には友人とのメールのやり取りにおける言葉の使い方が誤解を招くこと, ゲーム等に夢中になることが生活のリズムを乱し学校生活に影響を及ぼしたり, 深刻化するとゲーム障害という病気にまで至ってしまうこと, ネット上で知り合った人を信じて直接会うことが犯罪に巻き込まれることにもなりかねないことです。事例をもとに児童とともに真剣に考えながら学んでいました(写真8)。

【学校実習Ⅰの振り返り】

前回の授業で設定した自分の目標と関連させてエピソードの記述し, それに対する考察を各自が行いました。その後, 異なる配属学級の生徒間で交流し, どんなことをしたのか, それについてどう考えたのか等をお互いが報告し合い, 今回の学校における活動の振り返り学んだことを確認し合いました(写真9)。

【学校実習 2 に向けた授業分析と目標設定】

附属釧路義務教育学校前期課程で実施された授業をもとに演習をしました（写真 10）。具体的には、第 2 学年の道徳の授業について、実際の授業動画を視聴して記録をシートに残し、教師の意図と実践のズレや児童の様子等を分析・考察しました。また、附属釧路義務教育学校前期課程について「わかったこと」と「実習で見たこと・聞きたいこと」を書き出し、具体的な学校実習 2 の目標を設定しました。

【掲載写真】

写真 1：阿寒湖義務教育学校でのガイダンス



写真 2：高校生の自己紹介



写真 3：児童とゲームでの交流



写真 4：児童による学校案内



写真 5：授業観察



写真 6：休み時間の交流



写真7：休み時間の交流



写真8：防犯教室への参加



写真9：学校実習1の振り返り



写真10：学校実習2の目標設定



「みらいの教員育成プログラム」釧路モデルの実施報告 No.3 (2023年10月27日実施版)

「教員基礎」の第3回目(学校実習2:附属釧路義務教育学校前期課程)が実施されました。

北海道教育大学では、高等学校段階から教員の仕事を理解し、教員になるための素養を高めるとともに意欲の高揚を図る「みらいの教員育成プログラム(前半:『教員基礎』,後半:『教員基礎探究』)」を北海道教育委員会と連携して実施しています。

第3回目では、附属釧路義務教育学校前期課程にて、各自の配属学級で授業観察・学習支援・大学生との意見交流会を実施しました。1週間前に実施した阿寒湖義務教育学校での実習の成果と課題を踏まえ、休み時間の児童との関わり方や授業記録の取り方を工夫・改善している姿が確認できました。

【10/27(金)の活動内容】

1日目の実習は、簡単な着任式から始まり、代表の高校生が実習への抱負を語りました(写真1)。その後、2~3名で配属された第2学年から第4学年までの各学級(合計6学級)の朝の会に出席し、児童に向けて自己紹介をしました(写真2)。

1時間目は、大月副校長から附属釧路義務教育学校の特色や児童の様子、実習に当たって挑戦してほしいことや注意してほしいことなどに関して講話をいただきました(写真3)。

2時間目は、配属学級で授業観察を行い、授業記録を取りました。第4学年に配属されたある高校生は、国語の授業(単元「ごんぎつね」)を参観しました。実際に取った授業記録(写真4)を見ると、導入部における復習や本時の目標の立て方、展開部における班ごとの活動の指示や机間指導の様子、終結部における児童の発言のまとめ方などに注目していたことがわかります。また、「誰の考えかネームプレートを貼る」という板書の作り方など、細かい教育技術・学習支援にまで目を配って観察していたこともわかります。

中休みは、児童と一緒に中庭の「附属の森」で鬼ごっこをしたり、グラウンドで球技をしたりする様子が見られました(写真5)。

3時間目は、授業観察とともに学習支援もしました。附属釧路義務教育学校の教員が、高校生が授業に少し関わる場面を設定し、児童からの質問に答えたり、学習の支援を行ったりするなど、観察に加えて授業の一部に参加することができました。(写真6)

4時間目は、附属釧路義務教育学校の特色ある教育活動の一つ「たたら製鉄体験」の観察・支援を実施しました(写真7)。高校生にとっても初めての体験であり、児童と一緒に楽しみながら製鉄の仕組みや流れを確認していました。また、「たたら製鉄体験」は釧路校の大学教員や大学生がサポートしていることもあり、附属学校と大学が連携する授業の実際についても知ることができました。

給食・清掃指導にも参加しました。エプロン・バンダナをつけ、児童と一緒に活動を行いました。

5時間目・6時間目は、2日目の実習で行うレクリエーション活動について計画し、釧路校の大学2年生(フィールド生)からもアドバイスをもらいました。発達段階に応じた活動内容の修正案や児童への説明の仕方について話し合っていました。また、帰りの会を参観した後に、配属学級の担任の先生とふり返りを行い、2日目の実習に向けて助言・指導をいただきました(写真8)。

【掲載写真】

写真1：着任式



写真2：配属学級での自己紹介



写真3：大月副校長の講話



写真4：授業観察

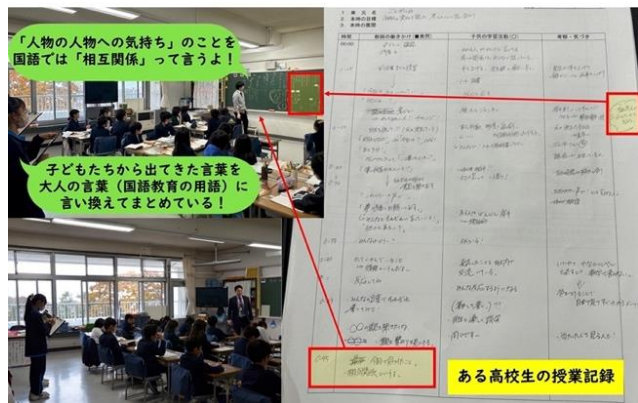


写真5：中休み



写真6：学習支援



写真7：たたら製鉄体験



写真8：レクリエーション活動の計画・修正



「みらいの教員育成プログラム」釧路モデルの実施報告 No.4 (2023年10月30日実施版)

「教員基礎」の第4回目(学校実習2:附属釧路義務教育学校前期課程)が実施されました。

北海道教育大学では、高等学校段階から教員の仕事を理解し、教員になるための素養を高めるとともに意欲の高揚を図る「みらいの教員育成プログラム(前半:『教員基礎』,後半:『教員基礎探究』)」を北海道教育委員会と連携して実施しています。

第4回目では、第3回目に引き続き、附属釧路義務教育学校前期課程にて、各自の配属学級で授業観察・学習支援・レクリエーション活動を実施しました。

【10/30(月)の活動内容】

2日目の実習は、季節の変わり目で風邪が流行っている中、予定を繰り上げる形になりましたが、無事に実施できました。こうした風邪が流行する時期に、朝から学校の先生方がどのように対応しているかも観察できた日でもありました。

1時間目は、金子養護教諭から学校保健に関して講話をいただきました。ケガをして出血している児童がいたときの対応、頭部を打撲した児童がいたときの対応、嘔吐をした児童がいたときの対応など、具体的な場面・状況によってどのような初期対応が望ましいのかについて金子先生から問いかけられ、高校生はベストアンサーを出していました(写真9)。

2・3時間目は、1日目と同様に授業観察・学習支援を実施しました。国語、算数、外国語活動、体育、音楽、図工、書写、道徳など様々な学習を観察・支援しました(写真10)。

4時間目は、レクリエーション活動の準備・最終打ち合わせを実施しました。事前に準備をしてきた高校生も多くいました。必要な道具の準備やレクリエーションの進行の手順を確認し、グループごとにリハーサルを行いました。小学生にもわかりやすいような伝え方を工夫しながら、本番に向けて互いにアドバイスをしながら、練習を重ねました(写真11)。

5時間目は、レクリエーション活動の本番でした。第2学年では、「タイムアップしりとり/いつ・どこで・だれが・なにをしたゲーム」(1組:写真12)、「いつ・どこで・だれが・なにをしたゲーム/フルーツバスケット」(2組:写真13)を実施しました。第3学年では、「スリーヒントクイズ/伝言ゲーム」(1組:写真14,2組:写真15)を実施しました。第4学年では、「お絵かきクイズ」(1組:写真16)、「仲間探し&リーダ探し」(2組:写真17)を実施しました。高校生は、短い期間で学年や学級の児童の様子を観察し、どのような活動が発達段階的に可能か、活動を通してどのような力を身につけてほしいかを考え、見事に実行していました。活動を見守った担任の先生や高校・大学の先生の間でも、言葉遣いや説明の仕方、活動の盛り上げ方、時間管理や片付けまで、「先生」として振る舞う高校生を称賛する話題でもちきりでした。レクリエーション活動終了後には、児童から感謝の言葉が寄せられ、帰りのバスが出てしまうギリギリのタイミングまで児童との別れを惜しむ姿が見られました(写真18)。

以上が第4回目の概要です。第3回目と合わせて2日間という短い学校実習の中でも、児童・教員との信頼関係を築き、附属義務教育学校のスタッフの一員として活発に行動する頼もしい「みらいの教員」としての高校生の姿をたくさん見ることができました。このような学校実習の機会を提供いただいた附属釧路義務教育学校前期課程の先生方に感謝申し上げます。

【掲載写真】

写真9：金子養護教諭の講話



写真10：授業観察・学習支援



写真11：レクリエーション活動の準備・練習



写真12：レクリエーション活動（2年1組）
タイムアップしりとり/いつ・どこで・だれが・なにをしたゲーム

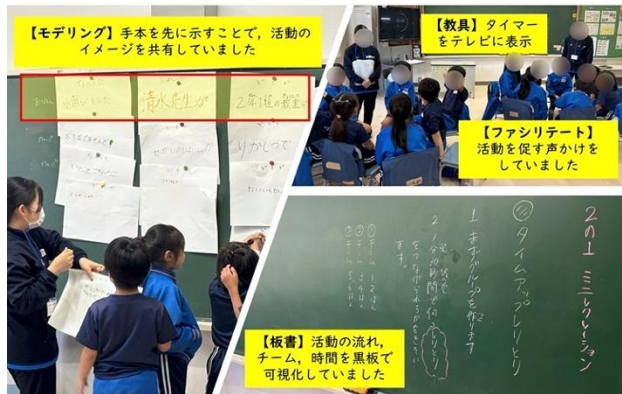


写真13：レクリエーション活動（2年2組）
いつ・どこで・だれが・なにをしたゲーム/フルーツバスケット



写真14：レクリエーション活動（3年1組）
スリーヒントクイズ/伝言ゲーム

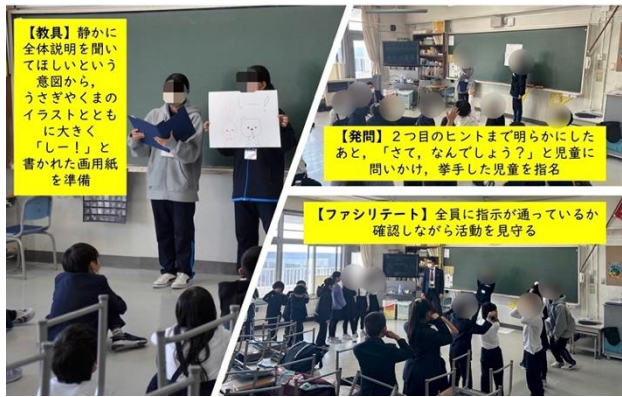


写真15：レクリエーション活動（3年2組）
スリーヒントクイズ/伝言ゲーム



写真16：レクリエーション活動（4年1組）
お絵かきクイズ

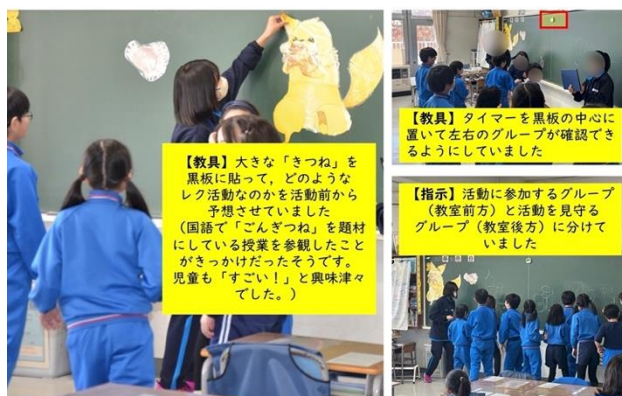


写真17：レクリエーション活動（4年2組）
仲間探し&リーダー探し

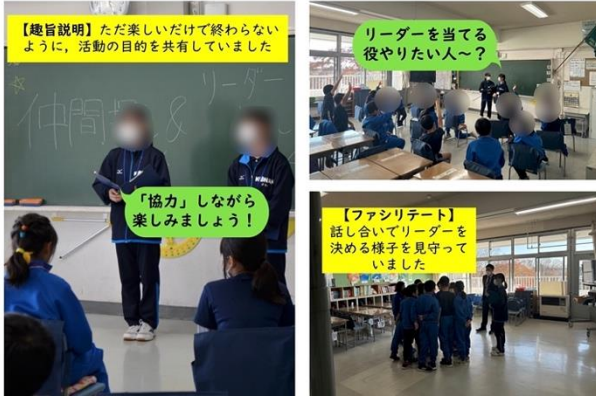


写真18：名残惜しい児童と実習生



「みらいの教員育成プログラム」釧路モデルの実施報告 No.5 (2023年11月3日実施版)

「教員基礎」の第5回目が実施されました。

北海道教育大学では、高等学校段階から教員の仕事を理解し、教員になるための素養を高めるとともに意欲の高揚を図る「みらいの教員育成プログラム（前半：『教員基礎』、後半『教員基礎探究』）」を北海道教育委員会と連携して実施しています。

第5回目では、大学の講義室にて、「教職の魅力」や「子ども同士/子どもと教師の信頼関係の築き方」などについて考え、次回の若手教員との交流に向けた準備をしました。以下、11/3（金）の活動内容をご紹介します。

【玉井副学長による講義】

1時間目は、本学の玉井康之副学長が「教職の魅力～皆さんは将来どんな先生を目指しますか？～」をテーマに講義を担当しました。「いい先生の特徴」について、高校生はこれまでの被教育経験や本プログラム内で実施した学校実習での観察を踏まえて回答している様子が見られました（写真1）。あるグループでは、「授業がわかりやすい先生」「授業が楽しい先生」「子どもに親身な先生」など、直近の学校実習で見た「いい先生」を事例に議論を展開しており、本プログラム内での「理論と実践の往還」がなされている様子も伺うことができました。

玉井副学長からは、教育的愛情やコミュニケーション能力など、北海道教育委員会が策定する「教員育成指標」（2023年3月改訂版）を参照しながら、それぞれが特に大事にしたい資質・能力を高められるように、本プログラムで引き続き活発な姿を期待するとの激励の言葉が寄せられました。

【演習活動】

2時間目から3時間目にかけては、本プログラム担当教員の星裕准教授が「子ども同士/子どもと教師の信頼関係の築き方」をテーマに講義を担当しました。改訂された生徒指導提要进行を確認し、生徒指導が「自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動」であることを共有しました。また、実践上の視点として「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」の4つが挙げられていることを確認しました。

以上の講義内容を踏まえて、【演習1】では「子ども同士のつながりを築き、信頼関係を深めるための活動」（写真2）、【演習2】では「朝の会」「帰りの会」のプログラム（写真3）を構想しました。

また、学校実習でのエピソードを交流し（写真4）、【演習3】として「実習では見聞きできなかった疑問点」（写真5）をリストアップしました。これらの疑問点は、次回、Zoomを用いて阿寒湖義務教育学校の若手教員へ質問します。

以上が第5回目の概要です。今後も、釧路校での「みらいの教員育成プログラム」に関する実施報告をして参りますので、ぜひご注目ください。

【掲載写真】

写真1：玉井副学長による講義

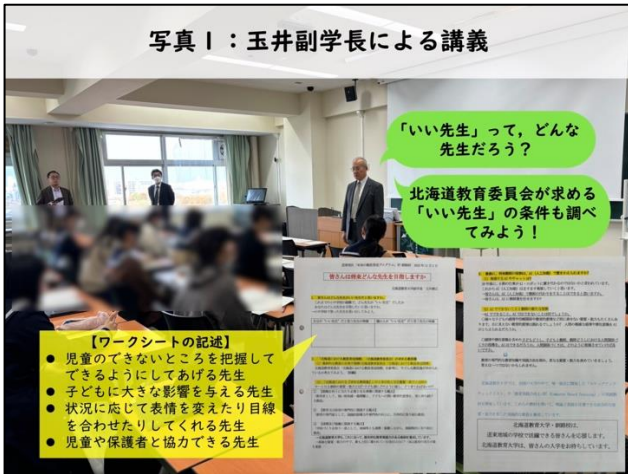


写真2：【演習1】子どもたちのつながりを築き、信頼関係を深めるための活動を構想しよう！

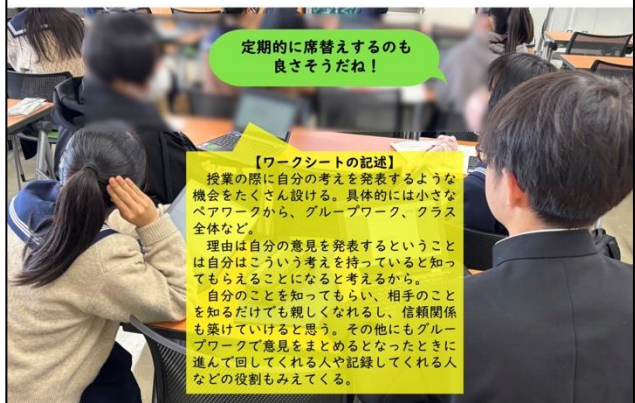


写真3：【演習2】「朝の会」「帰りの会」のプログラムを作成しよう！

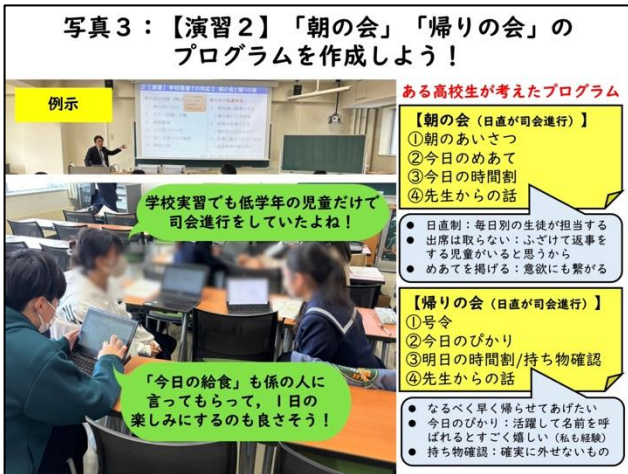


写真4：学校実習のエピソード交流

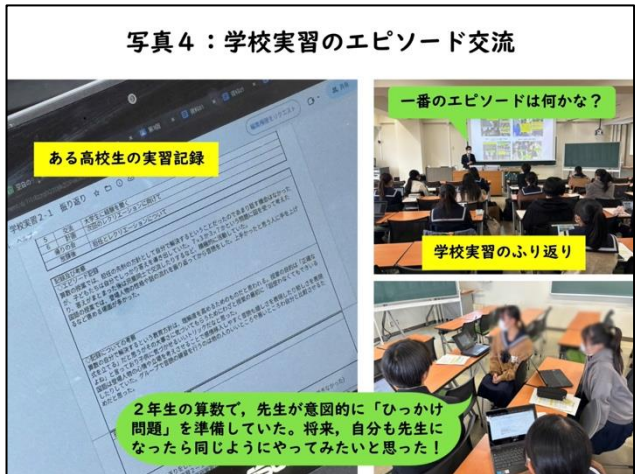
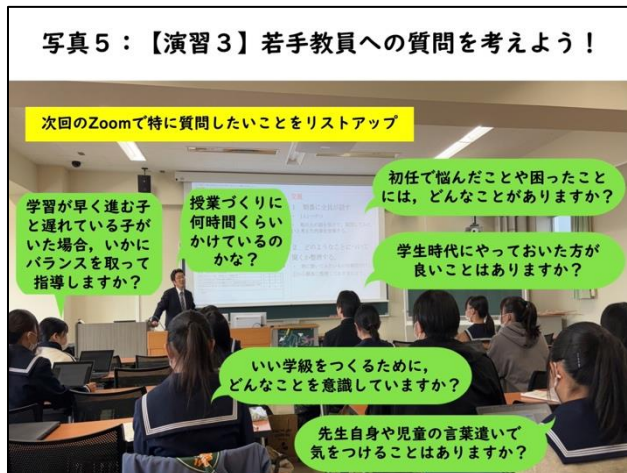


写真5：【演習3】若手教員への質問を考えよう！



「みらいの教員育成プログラム」釧路モデルの実施報告 No.6（2023年11月16～18日実施）

11月16～18日に、「教員基礎」の第6～8回目（若手教員との交流①②，まとめ①）が実施されましたので、概要を以下ご紹介します。

【プログラムの内容】

16～17日の2日間は、釧路校江南高校の生徒が、教職について疑問に思っていること等を現場の若手教員との交流の中で質問する内容でした。18日は、本プログラムを通した学びを整理し、12月9日に行われる報告会に向けての準備を行うことが、活動内容でした。

【若手教員との交流①（11月16日）】

阿寒湖義務教育学校の臺野空先生との交流を行いました。臺野先生からは、授業で学習内容の理解に躓いている子どもにどのように対応しているのかと質問について、まずは、学習に躓く子どもが出ないように気を付けていること、その上で学習に躓く子どもがいた場合は、授業時間以外にもフォローするなどしていることを教えてもらいました。また、子どもと関わる上で大切にしていることとして、約束したことを基本的に守る、特別な事情がある場合はそのことを説明して納得してもらうようにしているということも教えてもらいました（写真1）。

【若手教員との交流②（11月17日）】

阿寒湖義務教育学校の山口拓真先生との交流を行いました。山口先生からは、教職の魅力について、子どもの成長した姿をみたときに実感した経験をエピソードを踏まえて教えてもらいました。また、山口先生自身が教師になって変わったと感じている部分として、子どもの行為や発言の背景にあることを考えるようになったことについても具体的なエピソードを交えながら教えていただきました。他にも授業づくりや生徒指導で大切にしている考え方を話していただきました（写真2）。

【まとめ①（11月18日）】

本プログラムを通した学びを整理し、12月9日に行われる報告会に向けての準備に取り組みました。最初に、現場の若手教員との交流を通して自分の課題について学びになったことや感想等の交流を行いました。その後、これまでのプログラムの内容を振り返り、課題について何が分かったのかを整理しました。整理した後は、その内容を発表用の資料として原稿に書いていきました（写真3）。これから12月9日までの間に発表用の原稿を完成させ、わかりやすく伝えることができるようにスライド資料を作成していきます。報告会当日に自分たちが学んだことをわかりやすく伝えることができるよう、準備を進めてほしいと思います。

【掲載写真】

写真1：若手教員との交流①



写真2：若手教員との交流②



写真3：まとめ①



「みらいの教員育成プログラム」釧路モデルの実施報告 No.9 (2023年12月9日実施)

12月9日(土)9:30~12:00、「教員基礎」の第9回目(まとめ2:発表とふりかえり)が実施されましたので、概要を以下ご紹介します。

【プログラムの内容】

第9回は、「教員基礎」のプログラムを通して、学んだことについての発表会でした。第1回で設定した自分の追究したい課題について、学校での実習、現場教員との交流、講義等から学んだことを発表しました。一人一人が自分の気づいたことや学んだことを整理し、今後に向けての抱負を話すことができました。

【発表】

第1回で設定した自分の追究したい課題について、一人一人が発表しました(写真1~3)。設定した課題は、「子どもが主体的に授業に参加するためにはどのような工夫が必要か」、「子どもとの関わり方を理解する」、「学級づくりにおける教師の役割とは」、「教師のやりがいとは何か」など、幅広く見られました。それぞれが自分の課題についてわかったことを整理し、今後に向けての抱負も語ってくれました。発表後には、自分との共通点や相違点、さらに深く質問したい部分について交流していました。「教員基礎で自分が成長したと思う部分はどこですか。」、「気づいたことが多いですが、それらは自分で気づいたのですか。」など、参観してくださった方からの質問もありましたが、それらにはっきりと自分の考えを答える姿がみられました(写真4)。

【ふりかえり】

プログラム全体のふりかえりを行いました。個人でプログラムをふりかえった後、グループで交流をしました。「実際に学校に行くことはなかなかできないので、学校実習で気づくことが多かった」、「最初は子どもと関わることができるか心配だったけど、子どもから関わってくれて安心できた」、「授業を受ける立場から、少し実施する立場を経験して大変だったけどやりがいを感じるようになった」、「何気ない先生方の行動であっても、何か意図があることに気づいた」、「発表を通して、自分とは異なる視点でプログラムに参加していることを知り、面白いなと感じた」、「来年度は、子どもの発達段階による違いに着目して観察したい」、「高校生のうちに教育実習に行けたのはとても貴重な体験だった。今後の自分の将来につなげていきたい」などの意見が出されていました。プログラムを通した一人一人のふりかえりが今後につながる有意義な時間となりました。

【掲載写真】

写真1：発表の様子



写真2：発表の様子



写真3：発表の様子



写真4：発表後の応答

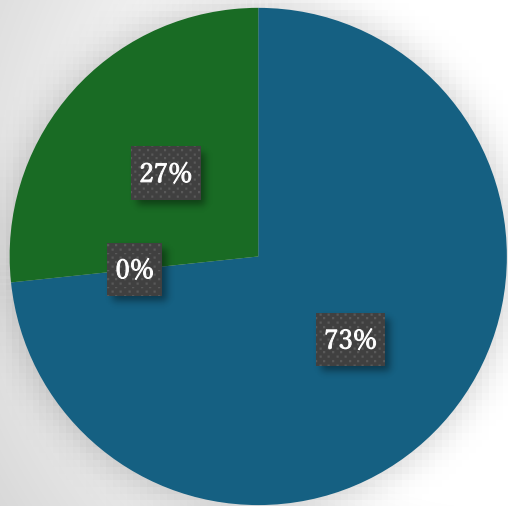


3 受講生へのアンケートの結果（「教員基礎」(道東圏)）

1 現在の教員志望について、該当するものを一つ選択してください。

- ・将来、教職に就きたいと思っている。 11人
- ・将来、教職に就きたいとは思っていない。 0人
- ・将来、教職に就くかどうか迷っている。 4人

教職志望

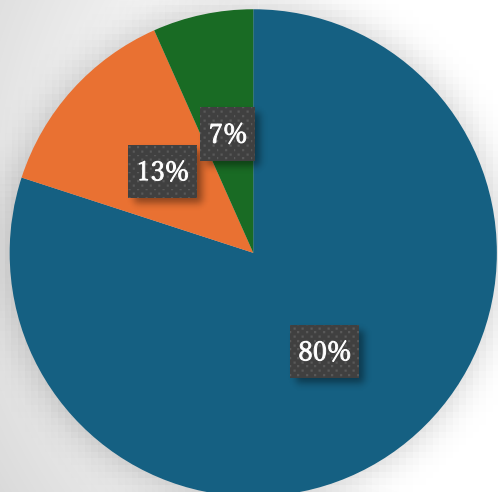


- 将来、教職に就きたいと思っている。
- 将来、教職に就きたいとは思っていない。
- 将来、教職に就くかどうか迷っている。

2 1で「将来、教職に就きたいと思っている。」または「将来、教職に就くかどうか迷っている。」と回答した方にお聞きます。将来、どの地域での教員になりたいと思っていますか。以下の選択肢について該当するものを一つ選択してください。

- ・札幌市以外の北海道の教員になりたいと思っている。 12人
- ・札幌市の教員になりたいと思っている。 2人
- ・北海道以外の他都府県で教員になりたいと思っている。 1人

就職志望地域

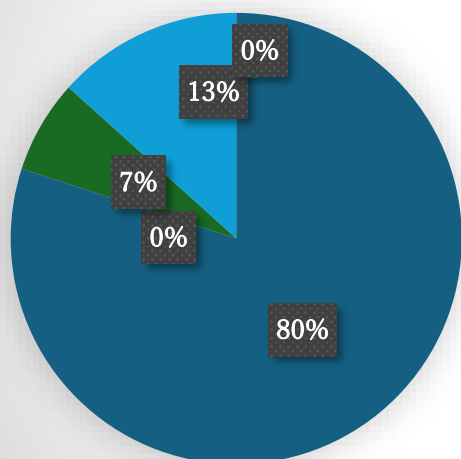


- 札幌市以外の北海道の教員になりたいと思っている。
- 札幌市の教員になりたいと思っている。
- 北海道以外の他都府県で教員になりたいと思っている。

3 現在の受験希望について該当するものを一つ選択してください。

- ・北海道教育大学を受験したいと思っている。 12人
- ・北海道外の国立教員養成系大学・学部を受験したいと思っている。 0人
- ・北海道内の私立大学で、教員免許が取得できる大学を受験したいと思っている。 1人
- ・北海道外の私立大学で、教員免許が取得できる大学を受験したいと思っている。 2人
- ・教員免許を取得できる大学を受験する予定はない。 0人

受験希望大学



- 北海道教育大学を受験したいと思っている。
- 北海道外の国立教員養成系大学・学部を受験したいと思っている。
- 北海道内の私立大学で、教員免許が取得できる大学を受験したいと思っている。
- 北海道外の私立大学で、教員免許が取得できる大学を受験したいと思っている。
- 教員免許を取得できる大学を受験する予定はない。

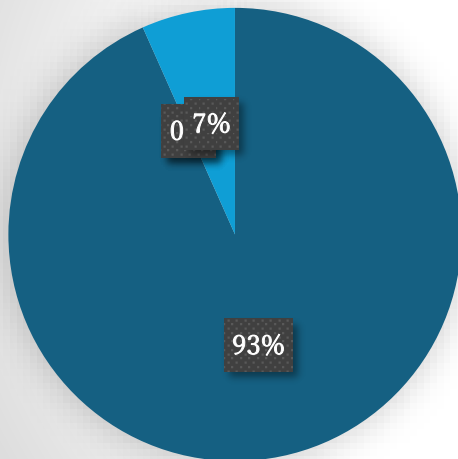
4 3で北海道教育大学を受験したいと回答した人のみ、以下の設問に答えてください。どのキャンパスを受験したいと思っていますか。以下の選択肢について該当するものをすべて選択してください。

- ・釧路校 11人
- ・札幌校 1人
- ・旭川校 4人
- ・函館校 0人
- ・岩見沢校 0人

5 受講前に比べて、教員になりたいという思いは変化しましたか。以下の選択肢について、該当するもの一つ選択してください。

- ・受講前と比べて、教員になりたいという思いが強くなった。 14人
- ・受講前と比べて、教員になりたいという思いが弱くなった。 0人
- ・受講後、教員になりたいと思わなくなった。 0人
- ・受講前と、教員になりたいという思いは変わらない。 1人

教職志望の変化



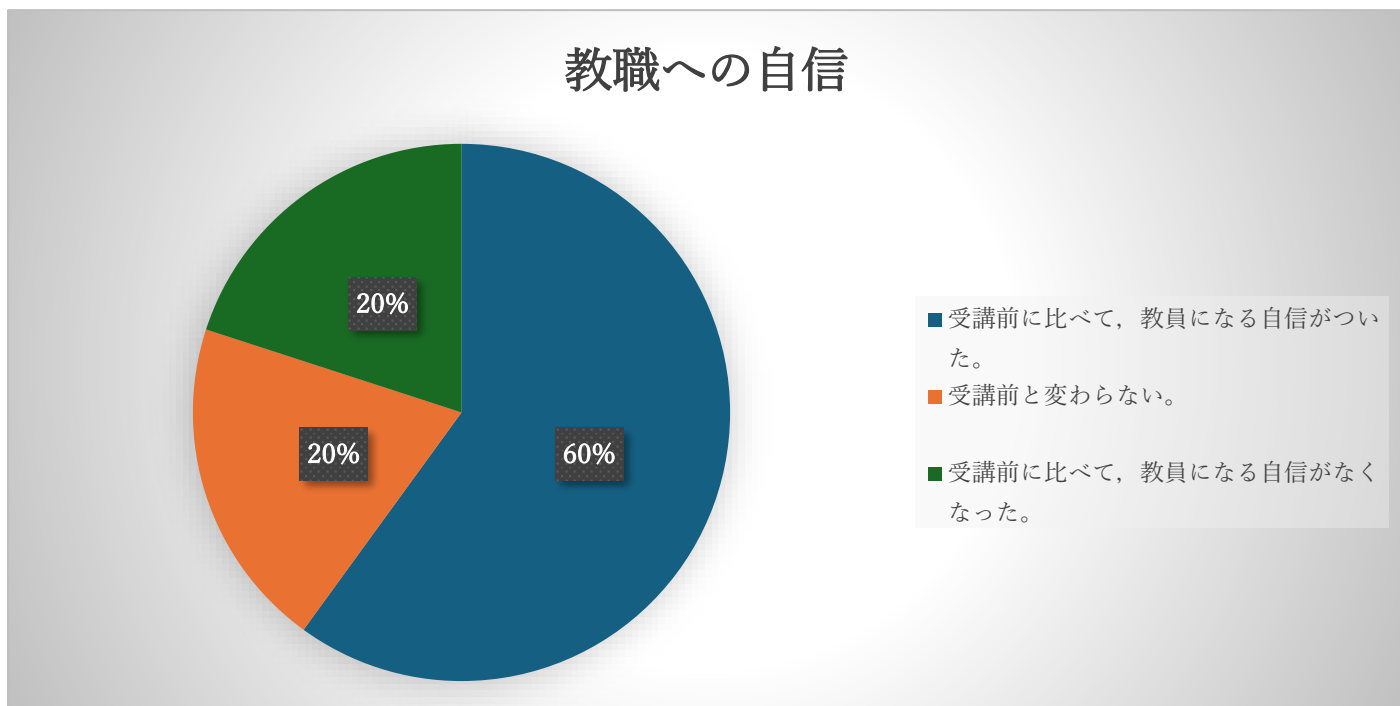
- 受講前と比べて、教員になりたいという思いが強くなった。
- 受講前と比べて、教員になりたいという思いが弱くなった。
- 受講後、教員になりたいと思わなくなった。
- 受講前と、教員になりたいという思いは変わらない。

6 5について選択した理由を教えてください。

- ・教員の仕事を学んだり実際に学校実習などで見ることでなりたいという気持ちが強くなったため。
- ・教員の仕事の過酷さに負けたくないという気持ちが芽生えたから。
- ・子どもの素晴らしさを知り、学んだことがたくさんあったから。
- ・実際に教育実習に行ったことによって改めて子どもは可愛いと感じたため。
- ・教員のやりがいが見えた分、大変なこともあると知ったから。
- ・普段とは違う立場から教員の仕事を観察して、より学校教育の面白さややりがいを感じる事が出来たから。
- ・今まで漠然と教員になりたい、思っていました、実際に小学生と交流できる機会があって、色々な面でやりがいを感じたからです。
- ・小さい頃から教員になりたいという思いがあったが、今回の教員基礎の授業を通して子どもと直接関わってみて、教員は大変なことも多いけどそれ以上にやりがいを感じられると思ったから。
- ・教員の楽しさを間近に知ることができたから

7 受講前に比べて、教員になる自信が変化しましたか。以下の選択肢について、該当するものを一つ選択してください。

- ・受講前に比べて、教員になる自信がついた。 9人
- ・受講前と変わらない。 3人
- ・受講前に比べて、教員になる自信がなくなった。 3人

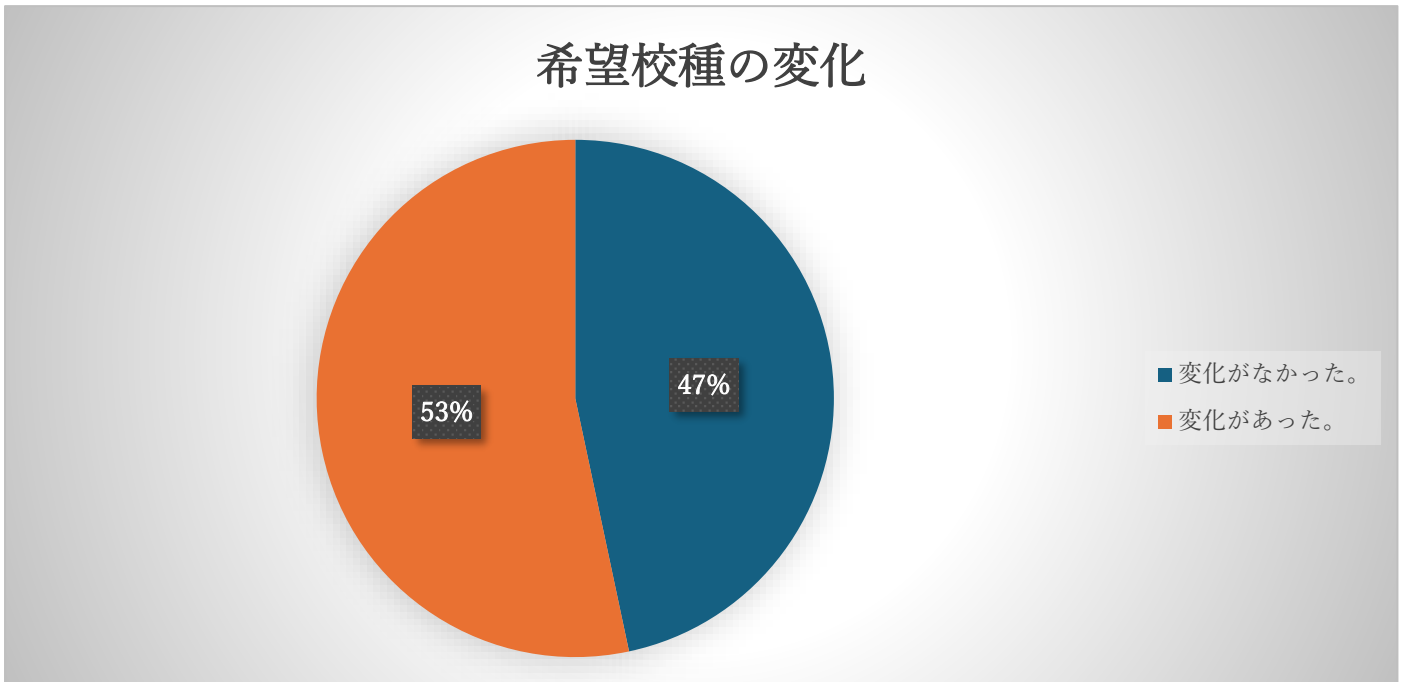


8 7について選択した理由を教えてください。

- ・実習などでの経験から
- ・先生になるという気持ちは前からあったから。
- ・大変な一面も見れたので、少し不安が残るから。
- ・やりがいも自信にも繋がったから。
- ・自分のコミュニケーション能力に不安を覚えたから。
- ・実習などを通して子どもとの接し方が前よりわかったから。
- ・不安が大きくなったから
- ・教員についての知識が豊富になったように感じたから。
- ・実習を重ねていくにつれて、先生との関わりも児童との関わりも慣れてきて、個人的に少しずつうまくなっていると感じるから。
- ・実習を通して子どもと関わったことにより子どもとの関わり方・コミュニケーションの仕方などを学べたため。
- ・教壇に立つと緊張してしまう。
- ・この活動で教員の仕事についてより詳しく学ぶことが出来て、かなり大変な仕事だとは感じたけれど自信がたりなくなったり、という変化はよくも悪くも感じなかったから。
- ・レクリエーションで小学生たちをまとめるのがすごく大変だったが、ハンドサインや伝え方を意識すると、3回目のゲームからみんな理解してくれるようになったので自信ができました。
- ・ミニレクリエーションで私達だけで企画・実行をしたが、子どもの協力もあって成功できたし楽しんでくれたのが伝わってきたから。
- ・実際に行動で試すことができたから

9 教員を希望している方にお聞きします。受講前と受講後で希望校種（幼稚園・小学校・中学校・高等学校等）に変化はありましたか。

- ・変化がなかった。 7人
- ・変化があった。 8人



10 9で「変化があった」と回答した方にお聞きします。どのように変化しましたか。

- ・元々は中学，高校で悩んでいたが小学校も興味が湧いた。
- ・小学校の教員も素敵だと思いました。
- ・中学校志望から小学校志望に変わった。
- ・元々中学校や特別支援の先生になりたいと思っていたけれど，小学校の先生にもたくさん魅力を感じたから。
- ・中学校・高校の先生になろうかと思っていたものが小学校の先生も良いと思うようになった。
- ・高校→小学校も良いと思うようになった。
- ・元々は中学校の教員を目指していたが，小学生と関わっていくうち，中学，高校にはない問いかけに対して反応があるのがすごく良かったので，小学校教員を目指します。
- ・中学校の先生になりたいと思っていたが小学校の先生にも興味が出てきた。

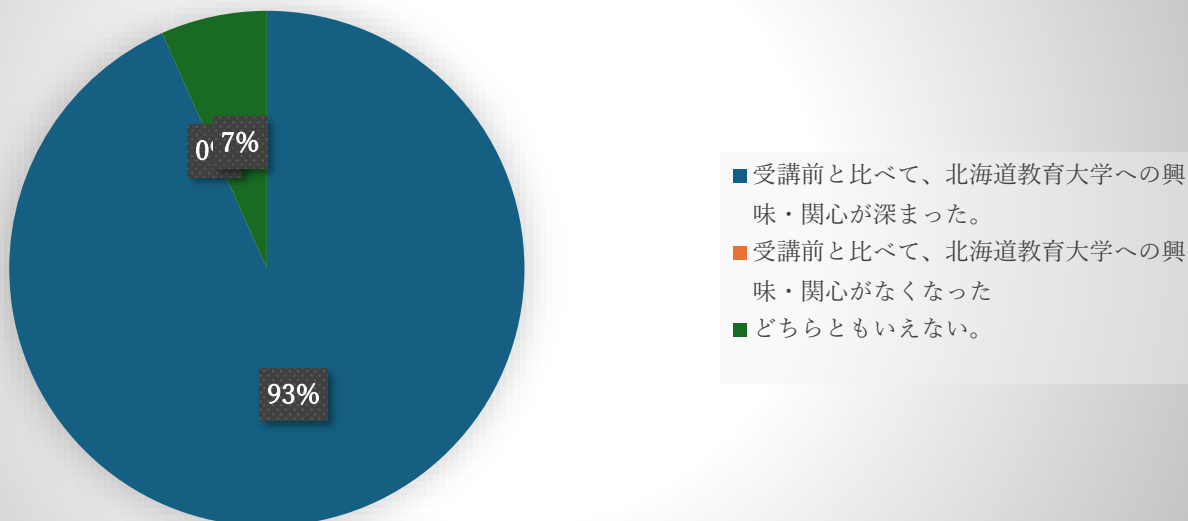
11 9で「変化があった」と回答した方にお聞きします。変化したきっかけは何ですか。

- ・休み時間の子どもの交流
- ・実習に行って。
- ・小学校のほうが子どもと関われるから
- ・小学生が「先生になってほしいなあ，先生になってまた学校に来て！」と素直に言ってくれたこと
- ・学校教育実習で実際に義務教育学校に行ったこと。
- ・実際に実習に行ってみて，小学校の先生の仕事が魅力的に感じた。
- ・小学校は中学校よりも先生と生徒の距離が近いと思ったから。

12 教員基礎，教員基礎探究を受講してみて，北海道教育大学への興味・関心は深まりましたか。

- ・受講前と比べて，北海道教育大学への興味・関心が深まった。 14人
- ・受講前と比べて，北海道教育大学への興味・関心がなくなった。 0人
- ・どちらともいえない。 1人

北海道教育大学への興味・関心の変化



13 上記に○をつけた理由を教えてください。

- ・講義から教員のことについて深く知る機会が多かったためやってみようという気持ちが大きくなった
- ・教育大学に入ったら，教員基礎で学んだこと以上のことが学べそうだと思うから。
- ・教職の魅力を感じることができ，将来の選択の一つになったから。
- ・実際に北教大の生徒の方々との交流もあり，参考になったから。
- ・受講前から北海道教育大学に進学したいと決めていたから。
- ・親身になってくれる先生が多くて，素敵な学校だと思ったから。
- ・大学でもこのような学習ができると考えたら魅力を感じた。もっと学んでいきたい。
- ・教育大の先生と関わる機会がたくさんあって，大学の温かい雰囲気を知ることができたから。
- ・大学に行く回数が増えるにつれ，教職の魅力についての知識も深まりより教育大学に行きたいという思いが増したため。
- ・先生がとても優しい。
- ・ひとつひとつの講義での大学の先生の問いかけに意味がちゃんとあって，学ぶ意欲や好奇心がさらに上がったから。
- ・関心はずっとあったのですが，実際に何度も大学内に入ったからです。
- ・受講する前までは北海道教育大学についてあまり知らなかったけど，大学生と交流してみたり，実際の実習と同じようなことを体験してみていい経験になったしもっと興味関心が出てきた。
- ・教育の仕組みを詳しく教えてくれるところだから。

4 全体的考察と今後の課題

(1) 結果

教員志望に関する質問への回答は、「将来、教職に就きたいと思っている」が11名、「将来、教職に就きたいとは思っていない」が0名、「将来、教職に就くかどうか迷っている」が4名であった。そのため、現時点で教職に就きたいと考えている生徒が7割強、迷っているが3割弱となり、将来、教職に進む可能性が高い生徒が多かった。

就職志望地域に関する質問への回答は、「札幌市以外の北海道の教員になりたいと思っている」が12名、「札幌市の教員になりたいと思っている」が2名、「北海道以外の他都府県で教員になりたいと思っている」が1名であった。北海道の教員志望者が全体の8割となった。

現在の受験希望大学に関する質問への回答は、「北海道教育大学を受験したいと思っている」が12名、「北海道外の国立教員養成系大学・学部を受験したいと思っている」が0名、「北海道内の私立大学で、教員免許が取得できる大学を受験したいと思っている」が1名、「北海道外の私立大学で、教員免許が取得できる大学を受験したいと思っている」が2名、「教員免許を取得できる大学を受験する予定はない」が0名であった。北海道教育大学を受験したいと考えている生徒が8割、それ以外が2割となった。

北海道教育大学のどのキャンパスを受験したいかに関する質問への回答は、「釧路校」が11名、「札幌校」が1名、「旭川校」が4名、「函館校」が0名、「岩見沢校」が0名であった。回答は複数選択可とした。複数選択可としたため、釧路校と旭川校などの重複がみられたが、11名が釧路校を受験希望キャンパスとして挙げていた。

教職志望の変化に関する質問への回答は、「受講前と比べて、教員になりたいという思いが強くなった」と回答した生徒が14名、「受講前と、教員になりたいという思いは変わらない」と回答した生徒が1名であった。そのため、教員基礎の受講により、教職志望意欲が高めまったと感じた生徒が多かったといえる。また、教職志望への意欲を高めた理由としては、学校実習を通して観察したり、子どもと関わったことでその面白さややりがいを実感できたことが挙げられていた。実際に、指導する側という立場で学校現場へ行ったことが、教職志望への意欲向上につながったといえる。

教職への自信に関する質問への回答は、「受講前に比べて、教員になる自信がついた」と回答した生徒が9名、「受講前と変わらない」と回答した生徒が3名、「受講前に比べて、教員になる自信がなくなった」と回答した生徒が3名であった。自信がついたと回答した理由としては、実習を通して子どもへの接し方がわかった、教員についての知識が増えた、教師や子どもとの関わりに慣れてきた、レクレーションの企画・実行が成功した、実際に実践することができたといった意見がみられた。受講前と変わらないと回答した理由は、以前から教師になろうとする気持ちがあった、詳しく学ぶことができたが自信に関する影響はなかったといった意見がみられた。自信がなくなったと回答した理由は、大変な一面もわかり少し不安が残った、コミュニケーション能力に不安を覚えたといった意見がみられた。これらのことから、実際に学校現場を観察したり、自分で実行してみたことで理解が深まったり、できたという手応えを感じたことが自信につながっていたことがうかがえる。一方で、学校現場の抱える状況について具体的に理解できたこと、実際に実践してみたことでうまくいかなかった経験等が、不安にもつながっていた。今回の受講者は、現段階では高等学校段階にあり、大学での教員養成課程を通した学修を受けていない状況であることを考えると、子どもとの関係づくり等に不安を抱えることは、当然、あり得ることであり、子どもとの関係作り等については、今後、大学に進学するなどして教員養成課程での学修を通して、自信を深めていくことが重要になる。

希望校種に関する質問への回答は、「変化がなかった」が7名、「変化があった」が8名であった。変化があったと回答した8名は、中学校、高等学校、特別支援教員から小学校の教員への希望校種に関する変化であった。変化した理由としては、休み時間等で子どもと関わった経験を通して、小学校では子どもとの関わりが多いこと、「先生になってまた学校に来て」などといわれたことなどが挙げられていた。上述の教職志望の変化では、子どもと関わった経験が面白さややりがいの実感につながったことが示されていたが、小学校段階の子どもと関わっ

た経験が希望校種にも影響を及ぼしていた。

北海道教育大学への興味・関心に関する質問への回答は、「受講前と比べて、北海道教育大学への興味・関心が深まった」が14名、「受講前と比べて、北海道教育大学への興味・関心がなくなった」が0名、「どちらともいえない」が1名であった。そのため、教員基礎の受講により、北海道教育大学への興味・関心が高まったと感じた生徒が多かったといえる。また、進学意欲を高めた理由としては、教職志望動機が高まったことから教員養成大学への進学意欲が高まった、大学の学生や教員と交流して雰囲気を理解することができた、より教職に関することを学ぶことができそうだから、大学の施設に入り親しむことができた、実習をもっと経験してみたいといった意見がみられた。高等学校段階から、本プログラムを実施することは、進学意欲の向上につながる可能性があり得る。

(2) 全体的考察と今後の課題

受講した生徒に関しては、以下の点が示された。まず、教職志望意欲が高く、北海道の教員志望者が8割であった。また、受験希望大学は北海道教育大学を選択している生徒が多く、中でも釧路校を選択している生徒が多かった。そのため、本プログラムの最終的な目的である「北海道教育大学への進学による教員養成」から「北海道での教員採用」への接続が、今後、期待される受講生徒であり、特に釧路校への進学や道東地域に根差す教員となる可能性が高い生徒であった。

また、プログラムの内容や実施方法に関しては、「教員に必要な基礎知識を学ぶとともに、児童生徒との触れ合いを通して、教職についての理解を深める」という「教員基礎」の目的に関して、一定の成果があったと考えられる。プログラムの受講を通して「教職志望」、「教職への自信」が向上しており、釧路校の特色でもある小学校へと「希望校種」の変化がみられた。また、プログラムが「北海道教育大学への興味・関心」を高めることにもつながった。

一方で、今後の課題として、以下の2点が考えられる。1点目は、令和5年度は実施初年度ということもあり、定員を15名に制限していた。しかしながら、「教員基礎」を含む「北海道高等学校『みらいの教員育成プログラム』」全体の目的としては、最終的に北海道で教職に就く人材の確保という点があり、より多くの高校生に間口を広げていくことが求められている。令和5年度「教員基礎」は、15名という定員の中で実施可能だった内容もあり、今後、受入数が大幅に増加した場合、実施内容の修正・変更も必要となる。2点目は、受講の難しさである。2年生後期の9月から12月まで約3ヶ月間という長期にわたり、土曜日を中心とした受講である。そのため、部活動に熱心に取り組んでいる生徒は受講が難しいスケジュールとなった。実際に「教員基礎」に参加した生徒にも、実施日と部活動の大会が重複するなどがあり、折角受講していても、講義や実習に参加できない等の課題がみられた。この点については、令和6年度から実施予定の「教員基礎探究」についても同様の課題を抱えている。今後、受講を希望する生徒が受講しやすい環境を整えていくと共に、受講者が増加した場合にも受け入れ可能なプログラムを考えていくことが求められる。

執 筆 者 一 覧

北海道教育大学

釧路校

副学長

キャンパス長

キャリア支援委員長

キャリア支援委員

玉井 康之

越川 茂樹

小野 亮祐

星 裕

玉井 慎也

半澤 礼之